

ティーチング・ポートフォリオ

史学科 高津 純也

(記入日： 2020年 9月 30日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

アジア史研究入門(1) (1年前期必修)、アジア史概説(1) (2年後期必修)、アジア史演習(1) (3年選択必修)、東アジア史 (3~4年前期選択必修) など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

日本を含む上位ブロックである東アジア世界の歴史文化社会について学び、また自ら調べ自ら考えることによって、現在および未来をよりよく生きるための教養、および社会で活躍するためのスキルを身につけることを目標とする。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

アジア史研究入門(1)においては、最終課題であるレポートのテーマを自ら決定しやすいよう、『世界史リブレット』シリーズ (山川出版社) の中から任意の書籍を選ばせることとした。アジア史演習(1)においては、漢文資料の読解にあたり、参加者相互で協力して進展させることを促した。また関連する課題についてのレポート作成にあたり、有用な参考文献や関連資料を教員が示唆することで、レポートのレベル向上を図った。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

アジア史研究入門(1)においては、受講者のほとんどが授業時間外に『世界史リブレット』の任意の1冊を通読し内容を理解した上でレポートを作成していることを確認できた (エビデンス 1)。アジア史演習(1)においては、自らの文献渉猟と担当教員の示唆とを材料にレポートを作成していることを確認できた (エビデンス 2)。漢文資料読解における相互協力については、授業前に参加者同士が訳文などについて話し合っている光景を目にしているが、具体的なエビデンスを提示できる状況には至っていない。爾後の課題としたい。

5 今後の目標 (これからどうするか)

ゼミで講読する漢文資料の選択を見直す、レポート作成のために利用する参考文献をより多様化するように促す、などの工夫により、授業時間外の学習時間を増やし、かつ提出されるレポートの完成度を高めさせられるよう努力する。

6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

1. 期末レポート (添削・講評記入ののち提出者に返却)
2. ゼミ各回のレポート (発表・討論ののち教員保管)

ティーチング・ポートフォリオ

辻 浩和

(記入日：2020 年 9 月 9 日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

基礎ゼミナール (1 年前期必修科目 2 単位)、日本史概説 (1) (2 年前期必修科目 2 単位)、日本史概説 (1) (3 年前期必修科目 2 単位)、社会科教育法 I (2 年前期教職科目 2 単位)、古文書学 (3 年前期選択必修科目 2 単位)、日本史演習 (2) (3 年通年選択必修科目 4 単位)、史資料演習 (4 年通年選択必修科目 4 単位)、女性史 (2) (大学院科目前期 2 単位) など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

学生が、歴史的経緯や社会的背景に照らして問題点を発見し、様々な種類の文献資料を的確に読解・分析することでその解決に至る能力を身につけること。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

学生が文献から様々な「問い」を立てられるよう、段階的な工夫を行っている。日本史概説ではコメントシートの講評によって発問の仕方を身につける。日本史演習では、テキストの輪読や研究報告の中で、多様な観点から質問が出るよう質問カードを事前に準備し、討論の素材として活用させるほか、報告者にトピックの作成を義務付ける。史資料演習では、個人面談の形で問題を掘り下げる方法を学んでもらっている。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

コメントシート、質問カードの利用は、回を重ねるごとに、それまでの学習成果を踏まえた、より多様な質問が出るようになった (エビデンス 1)。日本史演習・史資料演習では、毎回の討論を通じて、他者の分析視点や発表内容を取り入れたトピックが目立つようになった (エビデンス 2・3)。

5 今後の目標 (これからどうするか)

様々な発問を、どのように組み立てればよいかという構成法の指導を増やしたい。演習での討論に誘導をかけるほか、レポート添削を強化する。

6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

- 1 コメントシート・質問カード (非公開)
- 2 日本史演習 (2)・史資料演習ガイダンス資料 (非公開)
- 3 学生作成のレジュメ (非公開)

ティーチング・ポートフォリオ

(記入日:2020年 9月 29日/史学科 辻 明日香)

1 教育の責任(何をやっているか:担当科目)

基礎演習(1年前期必修科目、2単位)、コミュニケーション能力基礎演習・文献講読演習(2年前期・後期選択必修科目、各2単位)、アジア史演習(2)(3年通年選択必修科目、4単位)、史資料演習(4年通年必修科目、4単位)、アジア史研究入門(2)(1年後期必修科目、2単位)、アジア史概説(2)(2年前期必修科目、2単位)、西・南アジア史(3-4年後期選択必修科目、2単位)、歴史学(1)(共通教育科目、2単位)など。

2 理念(なぜやっているか:教育目標)

各学年の演習においては、学生が読む力、書く力、論理的に考える力、そしてそれを報告(執筆)する力を身につけることを目標としている。自ら問題を具体的に設定し、網羅的に資料を収集し、それを報告するというプロセスを通じて、自ら調べ学ぶという態度を身につける機会を提供する。講義においては、西アジア史の事例を通じて、学生が歴史と現代世界に対する広い視野と深い洞察力を養うことを目標とする。

3 方法(どのようにやっているか:実践の工夫)

前期のオンライン授業においては、毎回 forms のアンケートに講義内容のまとめや疑問、発見を書くように指示し、良いものは次週に紹介した。自宅等において一人で授業を受けている状況下において、他の学生がどのようなことを書いているかということが各自刺激になったようである。各演習もオンラインにて、teams のビデオを通じた発表や teams のチャットによる質疑応答にて学生が相互に学びあう環境を作るよう心がけた。

4 成果(どうだったか:結果と評価)

前期の授業(アジア史概説(2)、観光文化(ヨーロッパ)、女性文化史(2))の課題やレポートにおいては、図書館を利用できないなか各自インターネットを利用して課題に取り組み、時間をかけ丁寧に調べた解答が多くみられた。授業を聞いてノートを取る

だけになりがちな講義を、自分の関心に沿って調査したり報告したりする反転授業に近づけることができたのではないかと考えている。

5 今後の目標(これからどうするか)

課題を提出したというところにとどまらず、授業の予習復習や調査を自ら積極的に取り組むよう促していきたい。

6 エビデンスとなるもの(資料の種類などの名称)

各授業の forms アンケート (エビデンス 1 非公開)